

令和3～7年度の財政計画に計上された 庁舎等建築費90.7億円、財政は更に厳しく！



小金井で元気に！小金井を元気に！

五十嵐京子 通信 第59号

小金井市議会議員

2022年1月発行

五十嵐京子を支援する会



コロナ禍で、庁舎建設の見直しを求める 議会に耳を貸さない市長の独断専行

前号でお知らせをした小金井市中中期財政計画(案)から、さらに厳しい財政状況であることが11月16日の市議会全員協議会で明らかになりました。ここで新庁舎等の建築費が示されたことがその要因です。実施設計の前は84.4億円だった建築費用は90.7億円まで上がり、庁舎・福祉会館の総事業費は120億円を超えることになりました。

財政の状況を基金(自治体の貯金)で見ると、令和7年度の財政調整基金は8億円に、基金総額も13億円まで落ち込む計画です。この金額が如何に厳しい状況であるかは、ここ10数年の動きを見るとよくわかります(下図)。平成24年の財政調整基金11億円は危機的状況と言われました。それでも総額は31億円あり、この計画よりも多いのです。

来年度から小中学校14校の長寿命化計画がスタートするも基金はなし

小金井市内の小中学校14校は学校施設の

老朽化が進んでおり、順次改修や建て替えを進めていくのが学校施設長寿命化計画です。単に老朽化だけではなく、ここに来て児童数の増加により、小学校のクラス増により教室不足に対応するための補正予算も昨年可決されました。さらに、35人学級が始まるため、教室不足と老朽化への対策が求められています。

学校だけではなく、公民館や集会所などの施設も老朽化の対策が必要とされ、いわゆる市民が直接利用する施設への対応にも大きな事業費がかかります。何度も公共施設整備基金の設置を求めたものの、未だに基金は準備されていませ

基金の推移

(単位：億円)

年	財政調整基金	基金総額
平成 21 年	21	52
平成 22 年	25	51
平成 23 年	16	40
平成 24 年	11	31
平成 25 年	12	38
平成 26 年	12	44
平成 27 年	18	55
平成 28 年	21	64
平成 29 年	26	73
平成 30 年	30	83
平成 31 年 (令和元年)	36	84
令和 2 年	50	98
令和 3 年	45	91
令和 4 年	37	71
令和 5 年	28	48
令和 6 年	19	27
令和 7 年	8	13

*財政調整基金が危機的状況と言われた年

*網掛け部分が財政計画で示されたもの

*かつてなくひっ迫する予測

**それでも、市長は庁舎等建設を進める
姿勢を変えず**

11月に中期財政計画を提案した時、西岡市長は予定を変更することなく庁舎等建築の予算を令和4年度第一回定例会に提出することを明言したため、議会では市民生活への影響を質す質疑が続いたものの、市長の答弁は影響を及ぼさないよう努力するとの精神論に終始するばかりで、根拠を数字で示してほしいとの議会からの質問には答えることありませんでした。

ん。更に、武蔵小金井駅北口の再開発事業への資金的準備もされてはいません。市民生活に直結する事業の先が見えないのが今の小金井市の財政状況です。

この2年間、コロナ感染症拡大が始まって以来、市議会からは厳しい財政状況が想定されることから、西岡市長には庁舎等建設については財政状況を見極めることやコストダウンの検討を決議という方法で6回求めました。実施設計に入る前にも財政計画を示すことを求めていましたが、それに応えることなく断専行で進めたもので、周囲の声に耳を貸すことはなく、また、厳しい財政計画を示したのちもその意思を変えることがなかったため、市議会からは24名中16名が建築確認申請の手続きに入らないよう求め、12月議会にその回答を求めました。12月議会終盤に確認申請の手続きと建築費の予算は当面出さないことは明言しましたが、単に検討の時間がほしいと言っただけで、根本的な回答には至っていないのが現状です。

かつてのような危機的財政状況は避けなければならない

小金井市の長い歴史の中に、市職員の人件費に多くの費用が費やされ、市民サービスに中々お金が回らないという時がありました。この解決には長い時間を要し、未だに市民サービスが遅れている側面があることは否めません。現在、市内2か所の清掃関連施設に取りかかっている最中でもあり、限られた財政の中、優先順位を決め計画的に事業を進めることが必要です。



12月議会での一般質問

学校施設長寿命化計画で新しい学校づくり

新しい学校づくり

公共施設の更新計画は何年も前から分かってきた事業です。教室が足りないからと慌てるのではなく、何十年に一度の建物改修の時期にこそ、時代にあつた教育ができる環境を作るべきとの立場から、準備状況を質しましたが、決して十分と言えないのではなく、早め早めの対応をすべきと訴えました。ICT教育などの教育環境の変化、地球規模の環境問題への対応、地域のコミュニティの核としての機能、検討すべき課題は多くあります。

古い支度をスムーズに

超高齢社会を迎え、核家族化が進み高齢者だけの世帯が増加している中、古い支度をスムーズにするためにちよつと背中を押す役割を市でも担うべきと、他自治体の例を参考に質問しました。健康や家計の事だけでなく、財産の整理など残された者へ託す必要がある事などについて、高齢者のしおりにチェックシートを入れることを提案、検討していただくことになりました。

政治家は自分の言葉で語るべき

このコロナ禍で生活のあらゆるところにデジタル化が進んでおり、自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進も大きな課題です。とかく手間や時間にかかる市役所での手続きを、市役所に行かなくてもできるなど便利にするのも目的です。

第5次基本構想は今後10年先の目標を決める計画ですが、その質疑で小金井として自治体DXに取組む姿勢を質問、西岡市長は力強く推進することを明言し、今検討中の庁舎建設にも関わる、と発言しました。その後、12月議会中に、再度準備状況や進捗状況を質問すると、それは職員がほとんど進んでいないことを答弁しました。このように市長自身が発言したことに對し、再度質問すると職員が答えるという場面がしばしば見られます。自分が発言したことは自分の言葉で、その真意を伝えるのは当たり前のこと、ましてや市長という職務には行政の長としての責任がありますから、しっかりと責任を持って自らの言葉で話すべきです。



ホームページ画面

小金井で元気に！ 小金井を元気に！

小金井市議会議員

五十嵐京子

通信
第59号

2022年1月発行

五十嵐京子を支援する会

小金井市本町 3-8-9-312

電話 042-384-9920